

⑧ 中高 美術科問題の解答について（注意）

1. 解答はすべて、別紙のマークシートに記入すること。
2. マークシートは、電算処理するので、折り曲げたり、汚したりしないこと。また、マーク欄はもちろん、余白にも不要なことを書かないこと。
3. 記入は、HBまたはBの鉛筆を使って、ていねいに正しく行うこと。（マークシート右上の記入方法を参照）消去は、プラスチック消しゴムで念入りに行うこと。
4. 名前の記入 名前を記入すること。
5. 教科名の記入 教科名に「美術」と記入すること。
6. 受験番号の記入 受験番号欄に5けたの数で記入したのち、それをマークすること。
7. 解答の記入
 - ア. 小問の解答番号は1から63までの通し番号になっており、例えば、25番を

25

 のように表示してある。
 - イ. マークシートのマーク欄は、すべて1から0まで10通りあるが、各小問の選択肢は必ずしも10通りあるとは限らないので注意すること。
 - ウ. どの小問も、選択肢には①、②、③……の番号がついている。
 - エ. 各問いに対して一つずつマークすること。

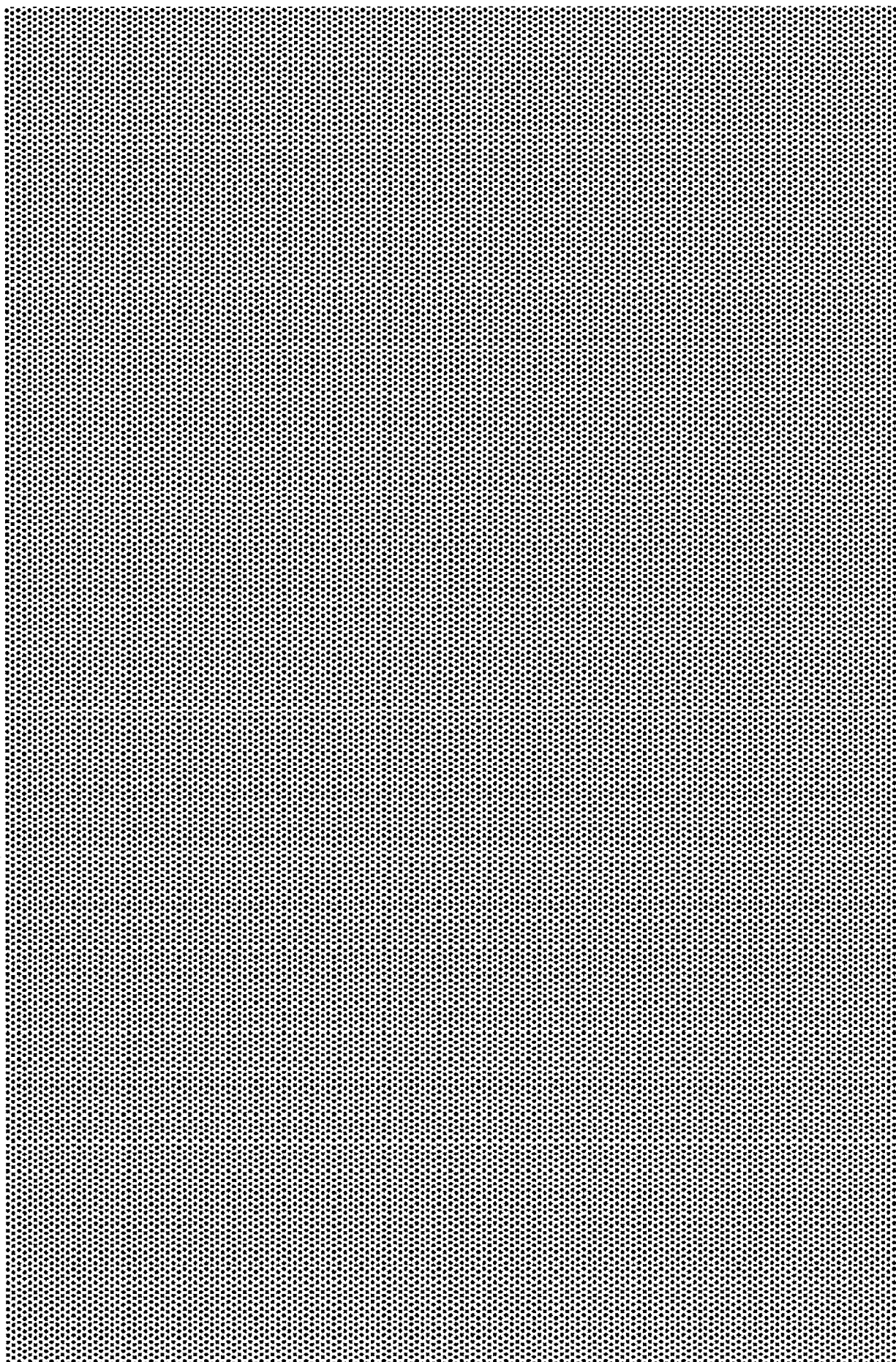
（マークシート記入例）

フリガナ	コウベクロウ	教科名	美術
名 前	神戸太郎		

数字で記入……

受験番号				
/	2	3	4	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0

小問 番号	解答記入欄 1 - 25	小問 番号	解答記入欄 26 - 50	小問 番号	解答 51
1	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	26	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	51	0 0 0 0
2	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	27	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	52	0 0 0 0
3	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	28	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	53	0 0 0 0
4	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	29	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	54	0 0 0 0
5	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	30	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	55	0 0 0 0
6	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	31	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	56	0 0 0 0
7	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	32	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	57	0 0 0 0
8	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	33	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	58	0 0 0 0
9	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	34	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	59	0 0 0 0
10	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	35	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	60	0 0 0 0
11	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	36	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	61	0 0 0 0



【1】 次の問いに答えよ。

(1) 「小学校(中学校)学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編」における「第2章 道徳教育の目標」に関する記述のうち、適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。なお、文中に「児童」とあるのは、中学校・特別支援学校中等部では「生徒」に読み替えなさい。

- ① 学校における道徳教育は、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする教育活動であり、社会の変化に対応しその形成者として生きていくことができる人間を育成する上で重要な役割をもっている。
- ② 道徳科が目指すものは、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の目標と同様によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことである。
- ③ 道徳科の授業では、道徳教育の目指す方向に合致する場合には、特定の価値観を児童に指導したり、指示に基づいて行動するよう指導したりすることも考えられる。
- ④ 道徳的価値とは、よりよく生きるために必要とされるものであり、人間としての在り方や生き方の礎となるものである。
- ⑤ 道徳性とは、人間としてよりよく生きようとする人格的特性であり、道徳性を構成する諸様相である道徳的判断力、道徳的心情、道徳的实践意欲と態度を養うことを求めている。

- (2) 次の文は、「小学校（中学校）学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編」における「第3章 道徳科の内容」の記述の一部である。（ア）～（エ）にあてはまる適切な語句の組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

小学校

〔規則の尊重〕

〔第1学年及び第2学年〕

約束や（ア）を守り、みんなが使う物を大切にすること。

〔第3学年及び第4学年〕

約束や社会の（ア）の意義を理解し、それらを守ること。

〔第5学年及び第6学年〕

法や（ア）の意義を理解した上で進んでそれらを守り、（イ）を大切にし、（ウ）を果たすこと。

〔公正、公平、社会正義〕

〔第1学年及び第2学年〕

自分の好き嫌いにとらわれなくて接すること。

〔第3学年及び第4学年〕

誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接すること。

〔第5学年及び第6学年〕

誰に対しても（エ）をすることや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めること。

中学校

〔遵法精神、公德心〕

法や（ア）の意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、（イ）を大切にし、（ウ）を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。

〔公正、公平、社会正義〕

正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、（エ）や偏見のない社会の実現に努めること。

- | | | | |
|---------|---------|------|-------|
| ① ア きまり | イ 自他の権利 | ウ 責任 | エ いじめ |
| ② ア きまり | イ 自他の権利 | ウ 義務 | エ 差別 |
| ③ ア きまり | イ 国民の権利 | ウ 責任 | エ 差別 |
| ④ ア 平和 | イ 自他の権利 | ウ 義務 | エ いじめ |
| ⑤ ア 平和 | イ 国民の権利 | ウ 責任 | エ 差別 |

- (3) 次の文は、「小学校（中学校）学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編」における「第5章 道徳科の評価」に関する記述の一部である。（ア）～（ウ）にあてはまる適切な語句の組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。なお、文中に「児童」とあるのは、中学校・特別支援学校中等部では「生徒」に読み替えなさい。

道徳性の評価の基盤には、教師と児童との人格的な触れ合いによる（ ア ）な理解が存在することが重要である。その上で、児童の成長を見守り、努力を認めたり、励ましたりすることによって、児童が自らの成長を（ イ ）、更に意欲的に取り組もうとするきっかけとなるような評価を目指すことが求められる。なお、道徳性は、極めて多様な児童の人格全体に関わるものであることから、評価に当たっては、（ ウ ）の成長の過程を重視すべきである。

- | | | | | | | |
|---|---|-----|---|-----|---|-----|
| ① | ア | 相互的 | イ | 実感し | ウ | 心身 |
| ② | ア | 共感的 | イ | 喜び | ウ | 心身 |
| ③ | ア | 相互的 | イ | 喜び | ウ | 個人内 |
| ④ | ア | 共感的 | イ | 実感し | ウ | 個人内 |
| ⑤ | ア | 共感的 | イ | 喜び | ウ | 個人内 |

【2】 次の問いに答えよ。

- (1) 次の文は、「小学校学習指導要領解説 図画工作編」(平成29年7月 文部科学省)における、教科の目標に関する解説の記述である。(ア)～(ウ)にあてはまる語句として適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

○「つくりだす喜びを味わう」について

つくりだす喜びを味わうとは、感性を働かせながら作品などをつくったり見たりすることそのものが、児童にとって喜びであり、楽しみであることを示している。それは、児童の欲求を満たすとともに、自分の存在や(ア)を感じつつ、新しいものや(イ)に向かう楽しさにつながる。また、友人や身近な社会との関わりによって、一層満足できるものになる。このようにして得られた喜びや楽しさは、形や色などに対する好奇心、材料や用具に対する関心やつくりだす活動に向かう意欲、(ウ)を創造しようとする態度などの「学びに向かう力、人間性等」を支えるものとなる。

- (ア) ① 個性 ② 情操 ③ 意味
 ④ 価値 ⑤ 成長
- (イ) ① 未知の世界 ② 伝統的なもの ③ 思い浮かべるもの
 ④ 身の回りの世界 ⑤ 自分の世界
- (ウ) ① 美しく楽しい生活 ② 美しく豊かな生活 ③ 楽しく豊かな生活
 ④ 幸福で豊かな生活 ⑤ 幸福で楽しい生活

(ア)	(イ)	(ウ)
4	5	6

(2) 次の文は、「小学校学習指導要領解説 図画工作編」(平成29年7月 文部科学省)における、指導計画の作成と内容の取扱いに関する解説の記述である。(ア)～(ウ)にあてはまる語句として適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

(8) 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。

(……中略……)

これを踏まえ、今回の改訂では、障害のある児童などの指導に当たっては、個々の児童によって、見えにくさ、聞こえにくさ、道具の操作の困難さ、移動上の制約、健康面や安全面での制約、発音のしにくさ、心理的な不安定、人間関係形成の困難さ、読み書きや計算等の困難さ、注意の集中を持続することが苦手であることなど、学習活動を行う場合に生じる困難さが異なることに留意し、個々の児童の困難さに応じた指導内容や指導方法を工夫することを、各教科等において示している。

その際、図画工作科の目標や内容の趣旨、学習活動のねらいを踏まえ、学習内容の変更や学習活動の代替を安易に行うことがないよう留意するとともに、児童の学習負担や心理面にも配慮する必要がある。

例えば、図画工作科における配慮として、次のようなことが考えられる。

- ・変化を見分けたり、微妙な違いを感じ取ったりすることが難しい場合は、造形的な特徴を理解し、技能を習得するように、児童の経験や実態を考慮して、特徴がわかりやすいものを例示したり、(ア)材料や用具を用意したり、種類や数を絞ったりするなどの配慮をする。
- ・形や色などの特徴を捉えることや、自分のイメージをもつことが難しい場合は、形や色などに気付くことや自分のイメージをもつことのきっかけを得られるように、自分や友人の感じたことや考えたことを(イ)場を設定するなどの配慮をする。

なお、学校においては、こうした点を踏まえ、(ウ)を作成し、必要な配慮を記載し、翌年度の担任等に引き継ぐことなどが必要である。

- (ア) ① 多様な ② 扱いやすい ③ 同じ ④ 身近な
⑤ 使い慣れた
- (イ) ① 絵に表す ② 立体に表す ③ 造形遊びをする ④ 言葉にする
⑤ 鑑賞する
- (ウ) ① 指導要録 ② 個別の指導計画 ③ 単元計画 ④ 年間指導計画
⑤ 個別の教育支援計画

(ア)	(イ)	(ウ)
7	8	9

- (3) 次の文は、「中学校学習指導要領解説 美術編」(平成29年7月 文部科学省)における、教科の目標についての解説の記述である。(a)～(e)にあてはまる語句として適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

○「造形的な見方・考え方を働かせ」について

造形的な見方・考え方とは、美術科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方として、表現及び鑑賞の活動を通して、よさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る力である感性や、想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすことが考えられる。今回の改訂では、造形的な視点を豊かにもって対象や事象を捉え、(a)に考えを巡らせる資質・能力の育成を重視している。

造形的な視点とは、造形を豊かに捉える多様な視点であり、形や色彩、材料や光などの(b)に着目してそれらの働きを捉えたり、(c)に着目して造形的な特徴などからイメージを捉えたりする視点のことである。

(……中略……)

造形的な見方・考え方を働かせるためには、表現及び鑑賞のそれぞれの活動において、このような造形的な視点を基に、どのような考え方で思考するかということを一人一人の生徒にしっかりと果たせるようにすることが必要である。例えば、「A表現」(1)では、アの事項は、(d)を重視して発想や構想をするのに対して、イの事項は、(e)や機能などを踏まえて発想や構想をするなど、発想や構想の考え方には違いがある。それぞれの事項の学習を深めるためには、その事項においてどのような考え方で思考し、発想や構想をしていくのかということを生徒自身が理解し自覚できるようにすることが大切である。そして造形的な見方・考え方を働かせることは、生涯にわたって生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力の育成につながるものである。

- (a) ① 主体的 ② 協働的 ③ 対話的 ④ 問題解決的
⑤ 創造的
- (b) ① 表現の要素 ② 表現の特徴 ③ 表現の美しさ ④ 造形の要素
⑤ 造形の特徴
- (c) ① 全体 ② 部分 ③ 共通点 ④ 相違点
⑤ 特性
- (d) ① 自己の心情 ② 自己の表したいこと ③ 伝える相手 ④ 伝える内容
⑤ わかりやすさ
- (e) ① 目的 ② 文化 ③ 条件 ④ 意図
⑤ 主題

(a)	(b)	(c)	(d)	(e)
10	11	12	13	14

- (4) 次の文は、「中学校学習指導要領解説 美術編」(平成29年7月 文部科学省)における、指導計画作成上の配慮事項に関する解説の記述である。(ア)～(ウ)にあてはまる語句として適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

道徳科との関連

美術科の指導においては、その特質に応じて、道徳について適切に指導する必要があることを示すものである。

第1章総則の第1の2(2)においては、「学校における道徳教育は、特別の教科である道徳（以下「道徳科」という。）を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳科はもとより、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、生徒の発達の段階を考慮して、適切な指導を行うこと」と規定されている。

美術科における道徳教育の指導においては、学習活動や学習態度への配慮、教師の態度や行動による感化とともに、以下に示すような美術科と道徳教育との関連を明確に意識しながら、適切な指導を行う必要がある。

(……中略……)

創造する喜びを味わうようにすることは、美しいものや崇高なものを尊重する心につながるものである。また、美術の創造による（ア）は、道徳性の基盤を培うものである。

次に、道徳教育の要としての特別の教科である道徳（以下「道徳科」という。）の指導との関連を考慮する必要がある。美術科で扱った内容や（イ）の中で適切なものを、道徳科に活用することが効果的な場合もある。また、道徳科で取り上げたことに関係のある内容や（イ）を美術科で扱う場合には、道徳科における（ウ）を生かすように工夫することも考えられる。そのためにも、美術科の年間指導計画の作成などに際して、道徳教育の全体計画との関連、指導の内容及び時期等に配慮し、両者が相互に効果を高め合うようにすることが大切である。

- (ア) ① 美的感覚 ② 美意識 ③ 豊かな情操 ④ 感受性 ⑤ 感性
(イ) ① 表現手段 ② 表現形式 ③ 技法 ④ 教材 ⑤ 材料
(ウ) ① 指導の成果 ② 学習経験 ③ 題材 ④ 資料 ⑤ 内容

(ア)	(イ)	(ウ)
15	16	17

(5) 次の文は、「高等学校学習指導要領解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編」（平成30年7月 文部科学省）における、第2章第4節「美術Ⅰ」における科目の目標に関する解説の記述の一部である。適切なものを①～⑤から3つ選び、番号で答えよ。

(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。

- ① 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとは、造形的な視点を豊かにするために必要な知識について理解を深めることを示している。
- ② 対象や事象を捉えるとは、形や色彩、材料や光などの造形の要素の働きや、造形的な特徴などを基にして心に思い浮かべる像や情景、ある物事について抱く全体の感じといったイメージなどを捉えるために必要となる視点について理解を深めることである。
- ③ 造形的な視点について理解を深めるとは、美術作品や造形物、自然物などや、生命感や心情、精神的・創造的価値などを認識することである。
- ④ 意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すとは、表現の意図に応じて材料や用具の特性を生かしたり、表現方法を工夫したりするなどして創造的に表す技能について示している。
- ⑤ 創造的に表すことができるようにするとは、よりよいものや美しいものを求め、生み出す技能を伸ばすことであり、表現の学習では、発想や構想に関する資質・能力と創造的に表す技能とが相互に関連しながら育成されていくものであり、両者が関連しあって初めて、創造的な表現が可能になるのである。

18	19	20
----	----	----

【3】 次の問いに答えよ。

(1) 日本の美術（絵画）について、次の（ア）～（ウ）の作者をそれぞれ①～⑤から選び、番号で答えよ。



（ア）



（イ）



（ウ）

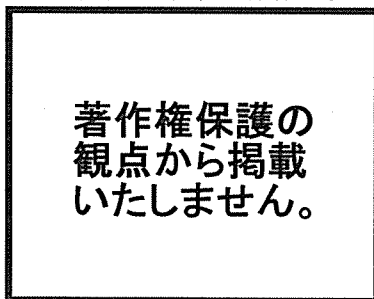
- ① 岸田劉生 ② 高橋 由一 ③ 浅井 忠 ④ 黒田 清輝 ⑤ 藤島武二

（ア）	（イ）	（ウ）
21	22	23

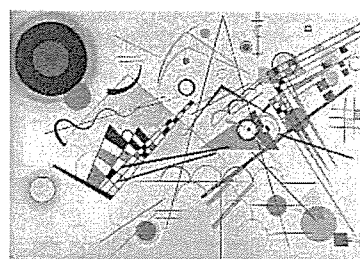
(2) 諸外国の美術（絵画）について、次の（ア）～（ウ）の作者をそれぞれ①～⑤から選び、番号で答えよ。



（ア）



（イ）



（ウ）

- ① パブロ・ピカソ ② ワシリー・カンディンスキー ③ クロード・モネ
④ フィンセント・ファン・ゴッホ ⑤ サルバドル・ダリ

（ア）	（イ）	（ウ）
24	25	26

- (3) 次の文は、クロード・モネが活躍した時代に関する記述である。(ア)～(ウ)にあてはまる語句の最も適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

19世紀のフランスでは、若手画家が認められるためにはサロン（官展）への出展が必要であったが、サロンでは（ア）の美意識が強く新しい傾向の作品が認められにくかったため、落選した若手作家などの不満が高まっていた。1863年、官展の審査に不満を抱いた作家たちの声により、落選した作品を集めた展覧会がナポレオン3世によって企画され、エドゥアール・マネ、クロード・モネ、カミーユ・ピサロなどの作品が出品された。マネは古典を学びながらも（イ）の考え方を取り入れ、明快な色彩と的確な筆さばきでパリの風俗を描き、若い画家たちから支持を受けていた。マネを支持する画家たちは、自分の目で見たままを描くという立場から、屋外での制作を試みた。彼らは自然の色は光の状態で刻々と変化することに気付き、自然の明るさを表すために純粋な色を使い、パレットでの混色を避け、筆触による描法を試みた。これら色彩の視覚的効果を表現しようとした画家たちの運動を（ウ）と呼ぶ。

- | | | |
|-------------|-----------|--------------|
| ① (ア) 新古典主義 | (イ) ダダイズム | (ウ) 印象主義 |
| ② (ア) ロマン主義 | (イ) 写実主義 | (ウ) シュルレアリズム |
| ③ (ア) 新古典主義 | (イ) 表現主義 | (ウ) 印象主義 |
| ④ (ア) ロマン主義 | (イ) ダダイズム | (ウ) シュルレアリズム |
| ⑤ (ア) 新古典主義 | (イ) 写実主義 | (ウ) 印象主義 |

(4) 新古典主義に関連した作品として最も適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

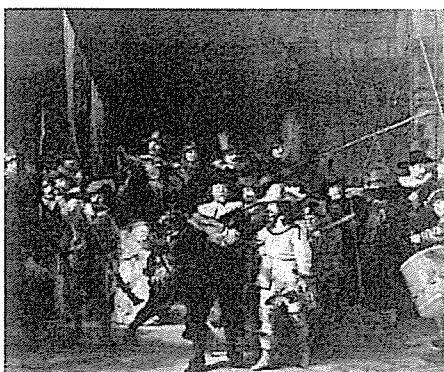
①



②



③



④



⑤



- (5) 次の作品に使用されている描画材と描画材に含まれる材料について (ア) ～ (ウ) にあてはまる適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

【色鉛筆】

著作権保護の
観点から掲載
いたしません。

芯は顔料や染料などにワックス、タルク、糊を加え乾燥させてつくる。消しゴムでは消えにくい、揮発油には溶ける。水溶性の色鉛筆は芯に (ア) を加え水に溶けるようにしたもの。参考作品ではパンの表面に水溶性の色鉛筆を用い、塗ったところを水で溶かして焼いたてかりを表現している。

【パステル】



顔料を (イ) で棒状に固めた描画材である。色数が豊富で色彩が美しい。粘土を加えて硬くしたハードパステルと、固着力の弱いソフトパステルがある。カサットの作品では、支持体に色紙を用いてパステルの発色を生かし、素早く少女の表情を捉えている。

【コンテ】

著作権保護の
観点から掲載
いたしません。

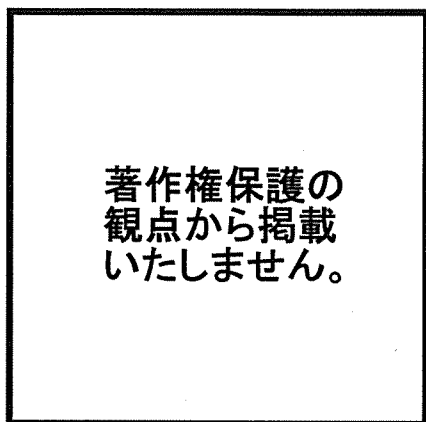
黒や茶褐色の天然顔料を粘土や (ウ) と混ぜて成形した画材。ハードパステルより硬く定着性もよい。素早く描けるのでクロッキーなどに適している。参考作品はウサギの姿を手早く生き生きと捉えたクロッキーである。

- ① 増粘剤 ② 成形剤 ③ 安定剤 ④ 結合剤 ⑤ 乳化剤

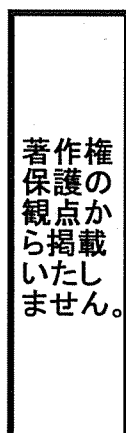
(ア)	(イ)	(ウ)
29	30	31

【4】 次の問いに答えよ。

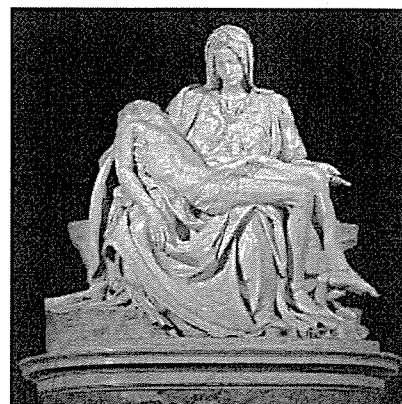
(1) 次の海外の立体作品について、(ア)～(ウ)の作者をそれぞれ①～⑤から選び、番号で答えよ。



(ア)



(イ)

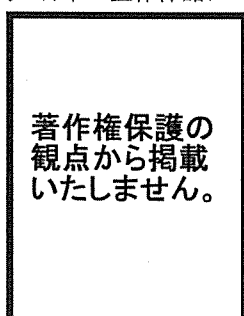


(ウ)

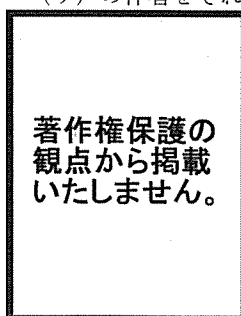
- ① オーギュスト・ロダン ② コンスタンティン・ブランクーシ ③ ミケランジェロ
④ ヘンリー・ムーア ⑤ ルイズ・ブルジョワ

(ア)	(イ)	(ウ)
32	33	34

(2) 次の日本の立体作品について、(ア)～(ウ)の作者をそれぞれ①～⑤から選び、番号で答えよ。



(ア)



(イ)



(ウ)

- ① 船越桂 ② 佐藤忠良 ③ 円空 ④ 高村光雲 ⑤ 平櫛田中

(ア)	(イ)	(ウ)
35	36	37

(3) 次の文は、明治維新後の美術についての記述である。下の問いに答えよ。

(i) (ア)、(イ) にあてはまる語句の最も適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

1887年 (ア) が設立され、校長に (イ)、教授としてアメリカ人のフェノロサが加わった。

- ① (ア) 東京美術学校 (イ) 岡倉天心
- ② (ア) 東京美術学校 (イ) 橋本雅邦
- ③ (ア) 京都市美術学校 (イ) 岡倉天心
- ④ (ア) 京都市美術学校 (イ) 橋本雅邦
- ⑤ (ア) 京都市美術学校 (イ) 狩野芳崖

38

(ii) (ウ)、(エ) にあてはまる語句の最も適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

文人画では (ウ) が、個性的で奔放な筆線と色彩で新風を吹き込んだ。作品として (エ) がある。

- ① (ウ) 富岡鉄斎 (エ) 阿倍仲麻呂明州望月図
- ② (ウ) 富岡鉄斎 (エ) 無我
- ③ (ウ) 横山大観 (エ) 阿倍仲麻呂明州望月図
- ④ (ウ) 横山大観 (エ) 無我
- ⑤ (ウ) 横山大観 (エ) 龍虎図

39

(iii) (オ)、(カ) にあてはまる語句の最も適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

高村光雲は、江戸時代末に (オ) として修業を積んだ人物であり、作品として (カ) がある。

- ① (オ) 宮大工 (カ) 老猿
- ② (オ) 宮大工 (カ) 野猪
- ③ (オ) 仏師 (カ) 老猿
- ④ (オ) 仏師 (カ) 野猪
- ⑤ (オ) 仏師 (カ) 人体骨格

40

- (4) 塑像作品の制作と焼成に関する記述について、(ア)～(ウ)にあてはまる適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

著作権
保護の
観点か
ら掲載
いたし
ません。

塑像によって人体や動物などを表現する場合、(ア)を使うことでポーズを自在に変えることが可能である。生徒が制作の途中で方向や角度を変えて観察することを通して、空間の効果や動勢などを実感しながらポーズなどを改善することができるのは、塑像による表現の最大の特徴であり、粘土の(イ)を最大限に生かした制作方法であるといえる。

以下塑像における制作と焼成の方法である。

塑像作品の焼成は、750～800℃程度の温度まで上げるため、焼き物用焼成窯（電気窯、まき窯、石油窯、ガス窯など）を使えばよいが、最低500℃以上の温度が加えられれば、土はひとまず焼き締まるので、もっと簡便な方法で、素焼することもできる。焼成上の注意点などは、作品を十分(ウ)させておくことと、温度の上昇は、特に200～300℃で辺りまでを2、3時間かけてゆっくり上げていくことが大切である。その効果として作品の表面に炭の色が付いたりして独特の味わいが生まれる。しかし、作品の仕上がりにには最初の1時間ほどの温度管理が非常に重要である。

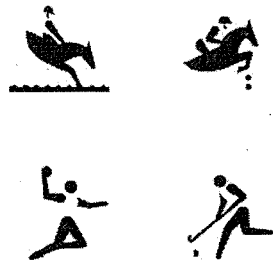
- (ア) ① 麻紐 ② 芯材 ③ 石こう ④ へら ⑤ 木づち
(イ) ① 耐久性 ② 不可逆性 ③ 可塑性 ④ 乾性 ⑤ 弾性
(ウ) ① 乾燥 ② 保湿 ③ 固く ④ 柔らかく ⑤ 温度を低く

(ア)	(イ)	(ウ)
41	42	43

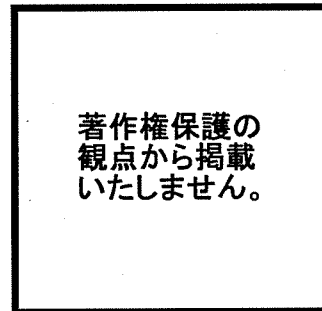
【5】デザインについて、次の問いに答えよ。

(1) デザインにおける役割や、効果について写真と説明文の適切な組合せを①～⑧から4つ選び、番号で答えよ。

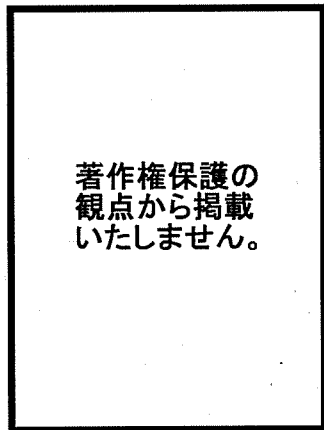
(ア) ピクトグラム



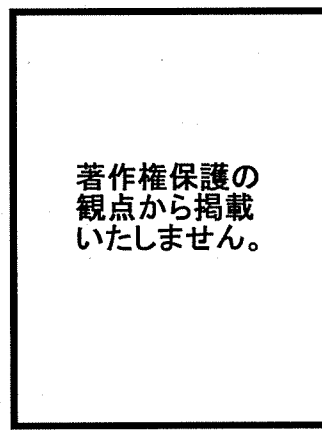
(イ) ユニバーサルデザイン



(ウ) キャッチコピー



(エ) 錯視



(オ) 身体能力や年齢、性別、国籍にかかわらず、できる限り多くの人がわかりやすく使いやすいデザインの考え方

(カ) 絵文字とも呼ばれ、文字などで表現する代わりに視覚的な図で情報を伝える記号

(キ) 視覚における錯角で、目の錯角とも言う。実際とは違った形や大きさ、性質のものに見えてしまう現象

(ク) 相手の関心を引くような魅力的な宣伝の言葉

- ① (ア) - (オ) ② (ア) - (カ) ③ (イ) - (オ) ④ (イ) - (カ)
⑤ (ウ) - (キ) ⑥ (ウ) - (ク) ⑦ (エ) - (キ) ⑧ (エ) - (ク)

44	45	46	47
----	----	----	----

(2) 次の図は高校生が考えた「誰もが抜きやすい電源プラグ」の持ち手のデザインプロセスである。(ア)～(オ)にあてはまる適切なものを①～⑩から選び、番号で答えよ。

(ア) から (イ) を洗い出す

既存の電源プラグをコンセントに抜き差ししながら (ア) し、どんなところに使いにくさがあるのかグループで話し合う。



(ウ) を出す

著作権保護の
観点から掲載
いたしません。

握り方や差し込む方向、持ち手の大きさや形、素材などを考慮して複数の (ウ) を出す。



クレイモデルで (エ) する

(ウ) を基に、紙粘土で原寸大のモデルをつくり、自分の手で使いやすさを試しながら改良を (オ)。



完成モデルの提案

著作権保護の
観点から掲載
いたしません。

- | | | | |
|--------|----------------|--------|--------|
| ① 観察 | ② アンケート調査 | ③ 利点 | ④ 問題点 |
| ⑤ 検証 | ⑥ プレゼンテーションボード | ⑦ アイデア | ⑧ スケッチ |
| ⑨ 一度行う | ⑩ 重ねる | | |

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)
48	49	50	51	52

【6】工芸について、次の問いに答えよ。

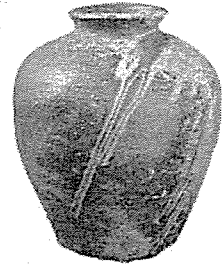
(1) 焼き物の写真と説明文について、適切な組合せを①～⑩から3つ選び、番号で答えよ。

著作権保護の
観点から掲載
いたしません。

(ア)



(イ)



(ウ)

著作権保護の
観点から掲載
いたしません。

(エ)



(オ)

(カ) 備前焼は、焼き物で、その作品の一つ「耳付き花入」は、神秘の刻印と言える窯変の美しさと、還元焼成ならではの金属の色が見事である。

(キ) 佐賀県唐津市に伝わる唐津焼は、16世紀後半から末頃に始まったとされ、初期には素朴な絵唐津・斑唐津・朝鮮唐津の日常雑器が盛んに焼かれた。

(ク) 滋賀県にある信楽では鎌倉時代以降、種壺や油壺として日用で使われる壺が多く焼かれていた。自然に任せたビードロ釉が一際個性的な景色を生んでいる。

(ケ) 岐阜県に伝わる美濃焼の作品である黄瀬戸向付は、高台を除いて掛けられた黄釉はザラっとした油揚手である。

(コ) 福島県会津地方に伝わる会津本郷焼は、明治期の東北の生活をうかがわせる素朴でしっかりした作りである。

- ① (ア) - (ケ) ② (ア) - (コ) ③ (イ) - (キ) ④ (イ) - (ケ)
⑤ (ウ) - (ク) ⑥ (ウ) - (コ) ⑦ (エ) - (カ) ⑧ (エ) - (ク)
⑨ (オ) - (キ) ⑩ (オ) - (コ)

【7】学校教育における博物館等の積極的な活用について、下の問いに答えよ。

(1) 学校教育における博物館等の積極的な活用の取組み例として書かれた①～⑤について、最も適切なものを1つ選び、番号で答えよ。

○美術館を活用して学習活動を行う取組 (例)

美術館を訪問し、2つの彫刻作品を鑑賞し、それぞれの作品の造形的なよさや美しさを感じ取ったり、表現の意図や特徴などについて考えたりしたことを造形的な特徴と具体的に関連付けながら話し合う。その後、(ア)の話の聞きながら振り返り、見方や感じ方を深め、鑑賞活動の喜びを味わう。このように施設が提供する教材や教育プログラムを活用する、(ア)や指導員などの専門的な経験や知識を生かして授業をするなど、多様な取組が考えられる。

- ① アートアーキビスト ② ギャラリスト ③ 学芸員 ④ 広報 ⑤ 展示員

56

(2) 次の文は神戸市立小磯記念美術館の教育普及活動について書かれたものである。適切なものを①～④から2つ選び、番号で答えよ。

- ① 小磯記念美術館は、教員の資質・能力の向上を図る場として活用したり、美術館の実情に応じた鑑賞教育を専門的に提供する場として活用したりする。また、生涯活動の素地づくりにつなげている。
- ② 出張授業では普及スタッフや学芸員が学校に出向いて授業をしたり、研修会などの支援をしたりしている。
- ③ 団体鑑賞では図工・美術の学習に特化し、活用されている。
- ④ 鑑賞教材では、アートカードや子供のための鑑賞ガイドの提供・鑑賞教材の貸し出しを行い、図工・美術などの授業をサポートしている。

57

58

- (3) 次の文は神戸市立小磯記念美術館の活用事例集の一部である。空欄にあてはまる正しい組み合わせを①～⑤から1つ選び、番号で答えよ。

目的

- ・ (ア) 小磯良平の作品をはじめとする様々な美術作品に親しむ。
- ・ 作品を鑑賞する活動を通して、造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。
- ・ 美術館を利用するマナーを身につけ、楽しく鑑賞する

美術館前の取り組み

- ・ 美術館のマナーを学ぶ。なぜ、何のためなのかをみんなで考え、子供が納得しながら身に付くようにし、思いやりの心も育てる。
- ・ 作品の一部分だけを見せ、「どんな作品なのか楽しみにしてね。」と美術館で作品を見る意欲を高める。
- ・ 教室で、掲示用教材《二人の少女》(イ) を鑑賞し、小磯良平さんに関心をもてるようにする。

小磯記念美術館での活動

- ・ (ウ) (対話型鑑賞)、アトリエツアー、自由鑑賞、お気に入り作品のスケッチなど。
- ・ 「気になる作品は？」等、作品を見る視点を与え、興味や関心をもって見るができるようにする。

美術館後の取り組み

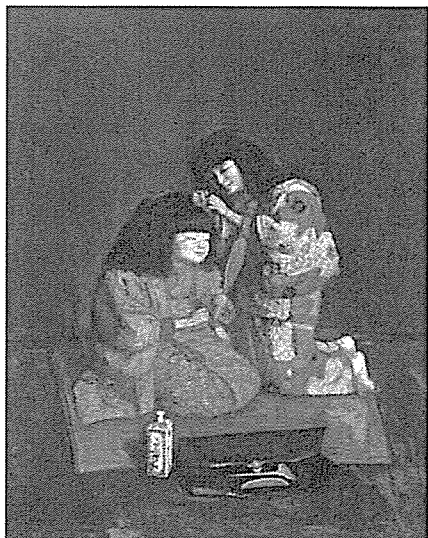
- ・ 美術作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴を他者とも分かち合える力をより一層育むため (エ) を活用する。
- ・ 彫刻、版画、写真、インスタレーション等の多様な表現にふれるなど、他の美術館鑑賞での鑑賞学習に生かす。

例：「美術作品のなぞにちょう戦」作品に対する疑問について推理しながら鑑賞する。

	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)
①	異国の画家	A	レクチャートーク	ポスター
②	郷土の画家	D	ギャラリートーク	教科書
③	異国の画家	D	ギャラリートーク	教科書
④	郷土の建築家	C	ソロビューイング	教科書
⑤	現代の建築家	B	レクチャートーク	ポスター

※《二人の少女》(イ) については次ページの作品の中から選ぶこと

《二人の少女》（ イ ） の作品



A

著作権保護の
観点から掲載
いたしません。

B



C

著作権保護の
観点から掲載
いたしません。

D

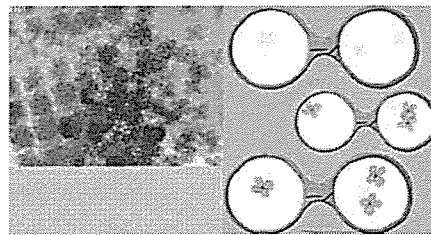
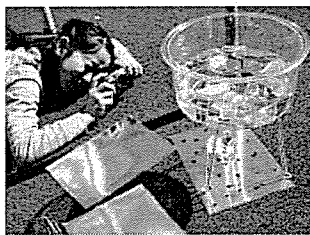
【8】ICTの活用とその指導について、次の問いに答えよ。

(1) 次の文は、「小学校図画工作科の指導におけるICTの活用について」(令和2年9月 文部科学省)におけるICTの活用例である。(ア)、(イ)にあてはまるものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

感じたことや想像したことなどを造形的に表す表現

造形遊びをする活動において、造形的な活動ができそうな場所を探すときに、候補の場所をデジタルカメラやタブレット型端末で撮影し、グループで相談する際の資料としたり、作品や自分たちの活動をデジタルカメラやタブレット型端末で撮影することで、さらに新たな(ア)や構想することのきっかけにしたりしている。

絵に表す活動において、形や色、コンピュータの特長、構成の美しさなどの感じを考えながら表現に適した(イ)などを組み合わせたりするなどして、動くもようをつくる際に活用している。



- ① 過程 ② 着想 ③ 方法 ④ 進行 ⑤ 発想

(ア)	(イ)
60	61

(2) 次の文は、「中学校美術科、高等学校芸術科（美術、工芸）の指導におけるICTの活用について」（令和2年9月 文部科学省）におけるコンピュータを活用した「ブックカバーのデザイン」の制作の記述である。（ア）、（イ）にあてはまるものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

本ICT活用例は、生徒自身が選んだお気に入りの本のブックカバーを制作する実践である。ここでは、全ての制作をコンピュータ上で行うのではなく、絵柄の部分の多くは絵の具等を使って紙に描き、本のタイトル等の文字をスキャンした絵柄にコンピュータを使って（ア）している。このようにICTを活用する学習活動と、実際に対象に触れたりするなどの学習活動とを、（イ）に応じて吟味し、効果的な指導を行うことも重要である。



- ① 伝えたいこと ② 抽象化 ③ レイアウト ④ 生徒の実態 ⑤ 題材のねらい

(ア)	(イ)
62	63

